



アドボケート (advocate) とは、障害者の権利擁護のための支援・擁護・代弁する人の意味。この企画では、当事者が自ら、自分の言葉で、今の生活についての思いを発信します。2019年11月16日に行われた第2回日本ダウン症会議でのご本人発表の原稿全文をご紹介します。

日々是好日

鳥取県 陸浦 俊裕



私は、陸浦俊裕と言います。鳥取県米子市から来ました。33歳になります。

読んだり話したりはにがてです。よろしく、お願いします。

私は、兄や弟と同じ幼稚園・小学校・中学校に行きました。中学校は、支援学級でした。それから、養護学校の高等部に行きました。中学校と養護学校は、自転車で通いました。

卒業してから、長崎の^{こうたいじ}皓臺寺に修行に行きました。2年間、修行を頑張りました。



写真を見てください。皓臺寺に行った最初の日です。修行が許されるまで、ずうっと立って待ちます。

私が好きなことは、TVで大相撲や水戸黄門の時代劇を見ることです。

それでは、私が今していることを発表します。

はじめに、家でのことを発表します。

朝、起きると、毎日、自分の着ていた物を洗濯します。

月曜日と木曜日の朝は、ごみ出しをします。雨が降る日は、つらいです。

晴れた日には、母親とウォーキングに行きます。週に1回のスポーツジムも始めました。



そのあと、毎日、自分で朝ご飯を作って食べます。昼ご飯も、自分で作って食べます。友だちが、遊びに来たときには、一緒に作って食べます。玉子を使った料理を、よく作ります。得意な料理は、チャーハンとオムライスです。

毎日、お米をといで、炊飯器をセットします。

火曜日・木曜日・土曜日・日曜日は、夕ご飯の後の片付けと洗い物当番をします。

7人分の片付けは、時間がかかります。

地域の防犯活動にも参加しています。小学校の下校時間に、パトロールをします。

私のお寺



自坊正面

瑞世(永平寺)



自坊全景

次に、仕事のことを発表します。

私は、お寺に生まれました。

長崎の皓臺寺で修行をして帰ってから、お寺の仕事を手伝っています。



永平寺と 総持寺に瑞世をして、和尚の資格も取りました。一人で法要や供養をする資格も持っています。



仕事の内容は、お寺の掃除や片付け、法要の準備などを行っています。特に、掃除は時間がかかって

大変です。お客さんの対応や、電話番号もしています。毎日、夕方6時には、鐘つきをしています。小学校4年生のときから、20年以上続けています。



法要や葬儀のときには、伴僧をします。鳴らし物やお経の読み上げの役です。

お盆やお正月には、お檀家回りもします。

月1回の、お寺の法式研修にも参加して、勉強をしています。

難しいことがたくさんあります。

近くのお寺の、大きな法要にも行って、お手伝いをします。

私は、このような毎日を過ごしています。

聞いてくれて、ありがとうございました。



「本人発表」に参加した感想

俊裕さんの感想

「緊張したあ！！」と、ひとこと。

母・郁子さんの感想

「地域の中で、地域の人と関わりを持って生きていってほしい。」「家族の一員として、家族のために一役を担って生きていってほしい。」そう願い、今日に至りました。

繰り返し教える回数もできるようになるまで待つ

時間も、ほかの兄弟より多かったと思いますが、その他のことは同じように育てたつもりでしたので、親元を離れ一人で修行に行かせることも心配はしませんでした。修行の日々も、その後の家事も、つらい事がたくさんあったと思いますが、愚痴を言うこともなくやり遂げてきました。

発表する姿のなかに、多くの人と出会い、理解や支援をさせていただくなかで、修行や自分の役割を果たすための努力によって身につけた成長の跡を見ました。